

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

東京医科大学消化器外科・小児外科での国内外科研修を終えて

兵庫医科大学外科学講座肝胆膵外科

岩間 英明

この度は日本臨床外科学会の国内外科研修制度により、東京医科大学消化器外科・小児外科において令和元年8月5日から9月1日までの4週間、手術研修の機会をいただきました。

まず始めに、このような機会を与えてくださいました日本外臨床科学会の跡見裕会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長をはじめとした委員の先生方、そして大変ご多忙な中で私の研修を温かく受け入れてくださいました東京医科大学消化器外科・小児外科主任教授の土田明彦先生、准教授の永川裕一先生をはじめとする医局員の先生方に心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

肝胆膵外科チームの手術日は月・水・金の週3日でした。4週間の研修期間には山の日があり、また第46回日本膵切除研究会もあったので、手術日が2日ほどつぶれてしまったにもかかわらず、膵臓手術だけでも開腹の膵頭十二指腸切除術を6例、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術を3例、ロボット支援下膵頭十二指腸切除術を1例、腹腔鏡下膵体尾部切除術を2例、腹腔動脈合併膵体尾部切除術を1例と計13例の膵臓手術を経験することができました。その他にも腹腔鏡下の分流手術や胃空腸バイパス術、肝部分切除術などの手術も見学させていただきました。4週間の研修期間中、私以外にも3人の外科医がやはり日本臨床外科学会の国内外科研修制度で研修され、さらにはインドや韓国からも多数の外科医が手術見学にいらしており、国内のみならず海外にも注目される世界クラスの膵臓手術を数多く経験できたのだと改めて感じました。さらに、手術のない日は永川裕一先生が貴重な講義を、大変ご多忙な中で何度もしてくださり、本当に充実した時間を過ごすことができました。

今回の研修において私の中で最大のテーマとしていたことは膵頭十二指腸切除術における上腸間膜動脈周囲のリンパ節郭清でした。これまで色々な施設で研修して各々の手術を経験し、また様々な施設の報告もいくつか拝聴してきましたが、膵頭十二指腸切除術におけるD2郭清について、特に上腸間膜動脈周囲のリンパ節郭清に関して明確なイメージを持つことができませんでした。当教室の先輩外科医より東京医科大学の永川裕一先生が非常に分かりやすく解説しているとお聞きしていたものの、講演を拝聴する機会を得られないままでしたので、今回の研修を通して上腸間膜動脈周囲のリンパ節郭清に関して、自分の中で解決したいと熱望しておりました。「今回の研修で何を学びたいですか？」とのご質問を永川裕一先生からいただいた時も真っ先に「上腸間膜動脈周囲のリンパ節郭清に関して学びたいです!」とお答えしたところ、DVDを1枚くださり、「このDVDで分かりやすく解説しているはずだから」とのお話をいただきました。このDVDは研修期間中に何度も見返し、また論文もいただいたのでこれも拝読し、さらにDVDを見て疑問に思ったこと、直接永川裕一先生に確認したいことがいくつか生まれてきたので、これも研修期間中に全てお聞きすることができ、初めて上腸間膜動脈周囲のリンパ節郭清についての自分の中で納得のいく理解ができました。

また、永川裕一先生といえばやはり腹腔鏡下膵切除術かと思います。研修初日に腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術の手術がありましたが、手術時間4時間30分程度で、驚くほど明瞭な術野展開で、手が止まることなく、きれいに膵頭部が切除されていくのを目の当たりにし、心から感動したことは決して忘れることはないと思います。完全腹腔鏡手術で膵頭十二指腸切除術を4時間30分で終了してしまうのなら開腹手術ではどうなるのだろうかと考えていると、開腹の場合は1日に縦で2件の膵頭十二指腸

切除術をされており、開腹から閉腹までで3時間30分の時もありました。手術時間を短くするために雑に手術しているわけでは決してない、のは言わずもがなでした。こうした手術を可能にしているのが、永川先生の提唱されている神経線維をランドマークにした手術だと感じましたし、本当に目からうろこが落ちる思いでした。今後の手術に是非とも活かしていきたいと考えています。

なお、今回の研修期間中はできる限り絵をたくさん描いて、手術のイメージを絵にして記憶に残そうと考えていました。数えてみると50枚以上の手術記録となり、絵心がないので上手な絵ではありませんが、自分の描いた絵を見返すと東京医科大学での手術の記憶が一気に戻り、また『こうしたらよいのか!』という感動が蘇ってきます。今回の研修でもう一つ貴重な宝物を得ることができたと感じています。

4週間という期間をいただきましたが、終わってみるとあっという間の国内研修でした。しかしながら、非常に多くことを得ることができました。今回の研修で得たものを今後の診療に活かしていくことで、お世話になりました皆様方に恩返しをしていきたいと存じます。

最後に、本研修に私を推薦して下さった兵庫県外科医会会長の富田尚裕先生、また人手不足で本当に忙しい日々が続く中で私を快く送り出してくださった兵庫医科大学外科学講座肝胆膵外科の波多野悦朗教授をはじめとする医局員の先生方にも深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

